

会務案内

日本天文学会 1994 年度春季年会記事

1994 年度春季年会は 5 月 17 日(火)から 19 日(木)の 3 日間、吹田市文化会館メイシアターで 3 会場併行で行われた。

講演数は口頭発表：118、ポスター＋ショートプレゼンテーション：272、Postdeadline papers：8 であった。年会参加者数は 626 名であった。

今回の年会は年会実行委員を理事長の指名により、理事の承認に基づき決定し、年会開催の責任体制を確立しようとした初めての試みであるが、年会の発表形式を変更したために、思わぬ混乱も生じた。しかし、阪大の常深理事はじめ阪大の教職員、学生の方々の積極的な運営によってこれらの困難を乗り越えることができたことと感謝している次第である。特にショートプレゼンテーションを始めとして講演の時間厳守を徹底したが、リハーサルまで行つての周到な準備のおかげもあり、この点に関しては大変成功したのではないかと考えている次第である。

年会の講演発表形式に関しては、年会開催以前から大きな波紋を呼び、関心の高さが改めてわかったので、引続き年会実行委員会、理事会、評議員会等で検討してゆきたいと考えている次第である。

口頭発表の各セッションの座長は次の方々をお願いした。

	A	B	C
5月17日			
午前	牧島一夫	福江 純	渡邊鉄哉
午後	河合誠之 満田和久	嶺重 慎 須藤 靖	常田佐久 渡部潤一
5月18日			
午前	観山正見	大橋隆哉	福島登志夫
午後	観山正見 観山正見	加藤万里子 中野武宣	福島登志夫 福島登志夫
5月19日			
午前	川辺良平 川辺良平	市川 隆 市川 隆	近田義広 近田義広
午後	半田利弘	戎崎俊一	唐牛 宏

今回はポスター発表を日替りにしたので、毎日各講演 1 分のショートプレゼンテーションとポスターディスカッションの時間を併せて 3 時間設け、口頭講演には 1 人 15 分を割いた。ビデオを使用する講演の数も多くなり、今回ポスターでビデオを希望された人には、不自由な点があったことを反省している。

◎研究奨励賞招待講演

今年会より新たに研究奨励賞の招待講演をしていただくことにした。今回はまだ今年度の授賞者が未定となつ

たので平成 4 年度受賞者、京都大学理学部の嶺重 慎氏に「降着円盤の不安定性の理論的研究」というタイトルで講演をお願いした。お願いするのが遅くなった経緯があったものの、大変分かりやすい講演をしていただいで好評であったし企画した側としては大変感謝している。

◎記者会見

年会に先立ち、5 月 16 日(月)18 時より年会会場で報道関係 7 社に対して記者会見が行われた。

話題としては以下を挙げた。

I] 春季年会講演より

①彗星と木星の衝突による氷の雲の反射光強度
(長谷川均他)

②「あすか」によるカシオペア A の観測 (常深博他)

II] 公開講演会

①宇宙の大規模構造 (池内 了)

②X 線天文衛星「あすか」(常深 博)

◎展示コーナー

賛助会員のために設けられたこのコーナーには今回、(株)ニュートリノ、(株)オルビス、(株)日立アプリケーションシステムズ(株)の 3 社が参加している。

◎天文教育フォーラム「今、天文学で何が教えられているか？」(共催)

年会開催期間を通じて教科書展示会を行い、19 日昼休みに上記研究会が開かれた。

◎公開講演会

春季年会閉会の翌 5 月 20 日(金)18 時 30 分より、大阪市立科学館サイエンスシアターにおいて公開講演会が開催された。今回の講演会は大阪市立科学館との共催でおこなわれ、中野薫夫館長はじめ多くの方々のご多大なご協力を賜った。特に天文係として加藤賢一、川上新吾両氏には大変お世話になった。講師は、大阪大学の池内了教授、常深博助教授をお招きし、それぞれ「宇宙の大規模構造」、X 線天文衛星「あすか」の講題で約 1 時間ずつ、最新の宇宙論、X 線天文学について分かりやすいお話をいただいた。当日は 150 名以上の参加者が熱心に講演を聴き、多くの質疑応答も交わされた。

◎その他

年會会期中に、評議員会、理事会、総会が開かれた。また会員による自主研究会が、第 1 日目に 6 集会、第 2 日に 1 集会、第 3 日目に 3 集会の計 10 集会が講演時間の合間を縫って開催された。

◎懇親会

第 2 日目の懇親会終了後会場内で、参加者 180 名で懇親会が開かれた。開催地を代表されて宮本重徳教授が挨拶された。開会にあたり、内田理事長より、ミノルタ、五島プラネタリウム、エイ・イー・エスの 3 社からのご寄付に対する謝辞を申し上げた。

総会記事

平成5年度の通常総会は、5月18日(水)16時より吹田市文化会館メシアターで開催された。会員270名が出席した。

議長：理事長 内田 豊

進行：庶務理事 渡邊鉄哉

総会次第

1. 開会
2. 天体発見賞贈呈の件
3. 平成5年度会務報告
4. 平成5年度会計報告及び監査報告
5. 平成6年度予算案
6. その他
7. 閉会

◇天体発見賞贈呈の件

評議員会の議決に基づき、以下の8件に天体発見賞・天体発見功労賞を贈呈する件が提案され満場一致で承認された。天体発見功労賞に関して検討事項が提出された。

天体発見賞

1. 山本 稔「わし座新星1993の発見」
2. 菅野松男「いて座新星1993の発見」
3. 金津和義「カシオペア座新星1993の発見」
4. 串田嘉男・村松 修「串田-村松彗星1993tの発見」
5. 串田嘉男「串田彗星1994aの発見」
6. 和久田 実「いて座新星1994の発見」
7. 高見沢今朝雄「高見沢-Levy彗星1994fの発見」

天体発見功労賞

8. 串田麗樹「NGC5194超新星(1994I)の検出」

引続き表彰式が行われ、理事長より表彰状・メダルが手渡された。

◇平成5年度会務報告 [付録1]

庶務理事より平成5年度の会務報告があり、原案通り承認された。

◇平成5年度会計報告及び会計監査報告 [付録2]

会計理事より平成5年度の会計報告があり、これに関して会計監査より監査の結果正常であった旨の報告があり、原案通り了承された。

◇平成6年度予算案 [付録3]

会計理事より平成6年度予算案の説明があり、原案通り了承された。

◇その他

年会の開催方法に関して多くの建設的な意見が交換された。これらの意見、また会場や天文月報誌上で行われている年会開催に関するアンケートの集約を待って、よりよい形態を捜し出して行くこととなった。今年会実行委員が秋季年会まで責任をもっておこなうことに関して総会の了承がえられた。

〔付録1〕

社団法人日本天文学会平成5年度会務報告

平成5年度は本会創立86年度、社団法人設立後60年にあたる。

ア) 出版

- 1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan)

第45巻 第2号	135-268頁	L. 7-38	平成5年5月25日 (1400部)
第45巻 第3号	269-486頁	L. 39-52	平成5年7月25日 (1400部)
第45巻 第4号	487-654頁	L. 53-58	平成5年8月25日 (1450部)
第45巻 第5号	655-760頁	L. 59-62	平成5年10月25日 (1450部)
第45巻 第6号	761-856頁	L. 63-76	平成5年12月25日 (1450部)
第46巻 第1号	1-122頁	L. 1-10	平成6年2月25日 (1450部)

- 2) 天文月報

第86巻第4号から第87巻第3号まで毎月発行、各号3200部(7月号3400部)。

- 3) 予稿集

1993年春季年会B5版404頁(1頁あたり1講演)

1993年秋季年会A4版341頁(1頁あたり2講演)

イ) 年会

- 1) 春季年会

ア) 記者会見：5月10日(月)相模原市民会館
報道機関：5社

- イ) 年会

平成5年5月11日~13日(火~木)相模原市民会館、あじさい会館

口頭発表：363、ポスター発表：36、post-deadline papers：11

年会参加者：659名

- ウ) 年会期間中のその他の催し

◇展示コーナー：会場内ロビー、参加：1社

◇「天文教育普及の直面する問題」フォーラム：会場内ロビー

(天文教育普及研究会・共催)参加者：40~50名

◇懇親会：けやき会館、参加者：220名

◇公開講演会 5月14日18時45分

X線でみた新しい宇宙像(宇宙研・井上一)

電波望遠鏡で世界は一つ(鹿児島大・森本雅樹)

エ) 研究集会：13

2) 秋季年会

ア) 記者会見：10月12日(火) 鹿児島大学教育学部
報道機関：7社

イ) 年会

平成5年10月13日～15日(水～金)

鹿児島大学教育学部

口頭発表：305, ポスター発表：32,

post-deadline papers：0

年会参加者：397名

ウ) 年会期間中のその他の催し

◇展示コーナー：会場内ロビー, 参加：2社

◇「公共天文台を考える」フォーラム：会場

(天文教育普及研究会・共催) 参加者：40～50名

◇エクスカージョン

6m電波望遠鏡(参加者：90名)

種子島宇宙センター(参加者：44名)

◇懇親会：鹿児島大学生協中央食堂, 参加者：230名

◇公開講演会 10月16日14時

「あすか」が開く新しいX線天文学

(宇宙研・井上 一)

薩摩と天文学(鹿児島大・森本雅樹)

ウ) 総会及び評議員会, 理事会

1) 総会

定期総会

平成5年5月12日16時30分～18時30分

相模原市民会館

議長：理事長 田中靖郎

総会次第

1. 天体発見賞贈呈
2. 研究奨励賞
3. 平成4年度会務報告
4. 平成4年度会計報告及び会計監査報告
5. 平成4年度予算
6. 新理事承認
7. その他

臨時総会

平成5年10月14日13時30分～15時30分 鹿

児島大学教育学部

議長：理事長 内田 豊

総会次第

1. 学会費の改訂について
2. その他

2) 評議員会

平成5年4月17日13時30分～17時 国立科学博

物館会議室

議長：杉本大一郎

議題：

1. 総会提出議案について
2. 学会財政の改善策について
3. 平成5年度予算案
4. 次期理事長・副理事長候補者の選考
5. 評議員の追加承認
6. その他

平成5年5月12日12時～13時 相模原市民会館

議長：森本雅樹

議題：

1. 総会提出議案の確認
2. その他

平成5年10月14日12時～13時 鹿児島大学教育
学部

議長：古在由秀

議題：

1. 会費の改訂について
2. 学術会議会員の推薦, 評議委員の改選について
3. その他

平成6年1月14日17時～19時 学士会館会議室

議長：田原博人

議題：

1. 学術会議会員の推薦, 評議委員の改選について
2. 会費の改訂について
3. その他

3) 理事会

平成5年5月13日 12時～13時 相模原市民会館

平成5年8月26日 13時～17時 国立科学博物館

平成5年10月15日 12時～13時

鹿児島大学教育学部

平成6年3月26日 13時～17時 国立天文台講義室

エ) 委員会, ワーキンググループなど

評議員選挙管理委員会

- 1) 第16期学術会議会員並びに1994～1998年度の
評議員の選挙を行った。(1月)また, 理事長の指
名を受け, 観山正見氏が学術会議会員候補の選挙
を行った。(1月)なお, 日本学術会議第16期会員
候補(杉本大一郎氏, 海部宣男氏)の認定連絡が
あった。(3月)

欧文研究報告編集理事会

- 2) 文部省から平成4年度研究成果刊行補助金とし
て383万円の交付決定通知があった。(8月)

- 3) スタイル校正を業者委託から編集部が行うこと
に変更した。

天文月報編集理事会

4) 各種収支の見直し, 紙面体裁の見直し, 市販価格の値上げ, 日本語校閲の簡素化等を行った。

天体発見賞選考委員会

5) 天体発見賞を大下信夫氏に, 天体発見功労賞を木内鶴彦, 関 勉氏に授与した。(5月)

内地留学奨学生選考委員会

6) 内地留学奨学金を藤原康徳氏に支給した。
(10月)

研究奨励賞選考委員会

7) 第5回日本天文学会研究奨励賞を関口真木氏に授与した。(5月)

早川幸男基金選考委員会

8) 早川基金による若手研究者の旅費の支給について公募を行い, 選考の結果, 7名の援助を行った。
(4月, 9月, 12月)

その他

9) 平成5年度学術交流費により155名に対し旅費補助を行った。(5月, 10月)

10) 学術用語集の初版を日本学術振興会に委託し, 刊行作業に入った。(2月)1,500部, 3,350円/部。文部省との事務手続きは完了した。(3月)

11) 平成6年度科学研究費配分審査委員第1段, 第2段委員の選挙を行ったが, 前年度の委員から辞退者がでたため前年度の選挙結果も踏まえて, 日本学術会議に推薦した。(10月)

12) 国際会議, 国内会議及びシンポジウムの協賛・後援, 国立天文台公開日の後援を行った。(平成5年4月~平成6年3月)

13) 年会講演からトピックスを選び, 公開講演の内容とともに報道機関に資料を提供した。
(5月, 10月)

14) 山田科学研究援助は本会推薦の嶺重 慎氏が受けている。(7月)平成5年度東レ研究助成金を本会推薦の田中培生氏が受けた。(2月)

15) キャンペーンを行い, 賛助会員, 月報広告の獲得等を実現した。

会員数

	特別会員(学生会員)	通常会員	賛助会員	合計
1993年3月31日	932(167)	1,643	52	2,627
入会	99	124	5	228
退会	16	61	4	81
移籍(増)	27	16	0	43
移籍(減)	16	27	0	43
1994年3月31日	1,026(230)	1,695	53	2,774

〔付録2〕

平成5年度 収支計算書

(平成5年4月1日~平成6年3月31日)

【一般会計】

I] 収支の部

(単位: 円)

科 目	予 算	決 算
基本財産運用収入	300,000	218,000
基本財産運用収入	300,000	218,000
会 費 収 入	23,800,000	25,101,855
特別会員会費収入	14,000,000	15,125,800
一般会費収入	12,000,000	12,377,800
学 生 会 費	2,000,000	2,748,000
通常会員会費	9,800,000	9,976,055
事 業 収 入	18,760,000	20,077,307
欧文研究報告発行事業	9,200,000	9,878,828
購 読 料	5,000,000	4,979,188
掲 載 料	3,300,000	3,542,390
別 刷 代	900,000	1,357,250
天文月報発行事業	6,430,000	6,425,905
購 読 料	1,100,000	1,204,476
別 刷 代	670,000	587,476
広 告 料	4,660,000	4,633,953
年 会 事 業	3,130,000	3,772,574
予稿集頒布収入	530,000	458,922
参加費収入	2,000,000	2,511,000
雑 収 入	600,000	802,652
印 税 収 入	1,600,000	1,900,000
星座早見印税収入	1,500,000	1,900,000
その他の印税収入	100,000	0
補 助 金 収 入	3,500,000	3,830,000
文部省刊行補助金収入	3,500,000	3,830,000
寄 付 金 収 入	1,000,000	335,384
寄 付 金 収 入	1,000,000	335,384
雑 収 入	1,140,000	2,135,025
受 取 利 息	40,000	33,096
特別企画収入	550,000	800,524
その他の収入	550,000	1,301,405
繰 入 金 収 入	646,228	646,228
平成2年度分消費税繰入	646,228	646,228
当期収入合計(A)	50,746,228	54,243,799
前期繰越収支差額	2,496,048	2,496,048
収 入 合 計 (B)	53,242,276	56,739,847

II] 支出の部

(単位: 円)

科 目	予 算	決 算
事 業 費	39,220,000	40,593,932
欧文研究報告発行事業費	17,200,000	19,119,856
直 接 出 版 費	10,800,000	11,631,146
別 刷 印 刷 費	720,000	1,153,320
人 件 費	980,000	2,063,843
謝 金	1,100,000	1,248,236
委 託 費	2,300,000	1,583,091
送 料 運 搬 費	1,000,000	1,263,570
消 耗 品 費	200,000	175,330
雑 費	100,000	1,320

天文月報発行事業費	16,520,000	16,380,299
直接出版費	11,500,000	11,067,631
別人印刷費	520,000	437,076
謝件費	1,000,000	1,008,173
送金	1,100,000	1,294,571
送料運搬費	2,000,000	2,172,488
消耗品費	380,000	400,360
雑費	20,000	0
年会事業費	5,500,000	5,093,777
予稿集印刷費	3,000,000	2,951,325
送金	500,000	508,280
送料運搬費	600,000	724,829
会場費	500,000	139,250
消耗品費	400,000	475,153
雑費	500,000	294,940
管理費	11,140,000	11,204,666
人件費	5,000,000	5,211,911
謝金	300,000	50,000
会議費	450,000	297,405
負担金	120,000	103,000
租税公課	950,000	977,568
旅費交通費	1,200,000	1,093,100
送料通信費	600,000	818,829
什器備品費	150,000	0
消耗品費	700,000	726,830
印刷製本費	10,000	135,400
光熱水料費	80,000	94,220
賃借料	1,010,000	1,120,570
保険料	90,000	92,690
諸手数料	150,000	246,266
書籍購入費	180,000	110,192
雑費	150,000	126,685
特定預金支出	170,000	178,400
退職給与引当預金支出	170,000	178,400
借入金返済支出	0	3,000,000
借入金返済支出	0	3,000,000
予備費	2,712,276	0
予備費	2,712,276	0
当期支出合計(C)	53,242,276	54,976,998
当期収支差額(A)-(C)	△ 2,496,048	△ 733,199
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	1,762,849

【特別会計／学術交流費】

(単位：円)

科目	予算	決算
収入の部		
賛助会員会費収入	1,950,000	2,100,000
受取利息	16,000	4,000
前期繰越収支差額	669,153	669,153
収入合計	2,635,153	2,773,153
支出の部		
学術交流費	2,550,000	2,508,100
予備費	9,000	7,004
支出合計	2,559,000	2,515,104
次期繰越収支差額	76,153	258,049

【特別会計／内地留学奨学金】

収入の部		
基本財産利息収入	200,000	185,590
前期繰越収支差額	237,228	237,228

収入合計	437,228	422,818
支出の部		
奨学金支出	240,000	250,000
予備費	10,000	1,339
支出合計	250,000	251,339
次期繰越収支差額	187,228	171,479

【特別会計／研究奨励賞】

収入の部		
奨励賞資金収入	200,000	460,000
受取利息	50,000	2,491
繰入金収入	0	3,000,000
前期繰越収支差額	1,743,642	1,743,642
収入合計	1,993,642	5,206,133

支出の部		
研究奨励賞支出	100,000	100,000
予備費	10,000	4,910
支出合計	110,000	104,910
次期繰越収支差額	1,883,642	5,101,223

【特別会計／早川幸男基金】

収入の部		
寄付金収入	500,000	3,150,000
受取利息	50,000	293,338
前期繰越収支差額	9,008,954	9,008,954
収入合計	9,558,954	12,452,292

支出の部		
研究補助支出	1,000,000	1,046,000
予備費	10,000	5,616
支出合計	1,010,000	1,051,616
次期繰越収支差額	8,548,954	11,400,676

平成5年度 一般会計正味財産増減計算書

(平成5年4月1日～平成6年3月31日)

増加の部

(単位：円)

勘定科目	決算額
大科目・中科目	
増加の部	
資産増加額	
退職引当預金増加額	217,732
減価償却引当預金増加額	26,915
増加額合計 (F)	244,647
減少の部	
資産減少額	
什器備品償却額	232,800
貯蔵品減少額	559,784
減価償却引当預金取崩額	785,158
当期収支差額	733,199
負債増加額	
退職給与引当金繰入額	217,732
減少額合計 (G)	2,528,673
当期正味財産増減額 (H=F-G)	△ 2,284,026
前期正味財産 (I)	11,668,363
期末正味財産 (J=I+H)	9,384,337

貸借対照表
平成5年度(平成6年3月31日)

【一般会計】

(単位：円)

資 産 の 部		負債及び正味財産の部		
勘定科目 大科目・中科目	金 額	勘定科目 大科目・中科目	金 額	
流動資産		流動負債		
現金預金	13,870,257	未払金	1,143,365	
未収会費	1,549,200	預り金	1,465,978	
未収金	902,294	前受金	1,442,244	
前払金	427,140	前受会費	11,534,455	
有価証券	600,000	流動負債合計		15,586,042
流動資産合計	17,348,891	固定負債		
固定資産		退職給与引当金	1,300,174	1,300,174
投資有価証券	5,000,000	負債合計		16,886,216
その他の固定資産		正味財産		
什器備品	1,113,833	(うち、基本金)	9,384,337	
貯蔵品	1,507,655	(うち、当期減少額)	(5,000,000)	
退職給与引当預金	1,300,174		(2,284,026)	
固定資産合計	8,921,662	正味財産合計		9,384,337
資産合計	26,270,553	負債及び正味財産合計		26,270,553

【特別会計】

学 術 交 流 費				
流動資産			正味財産	
現金預金	258,049		次期繰越収支差額	258,049
			(うち当期減少額)	(411,104)
			正味財産合計	258,049
資産合計	258,049		負債及び正味財産合	258,049
内 地 留 学 奨 学 金				
流動資産			正味財産	
現金預金	171,479		基本金	4,310,000
その他の固定資産			次期繰越収支差額	171,479
投資有価証券	4,310,000		(うち当期減少額)	(65,749)
			正味財産合計	4,481,479
資産合計	4,481,479		負債及び正味財産合計	4,481,479
研 究 奨 励 賞				
流動資産			正味財産	
現金預金	5,101,223		次期繰越収支差額	5,101,223
			(うち当期増加額)	(3,357,581)
			正味財産合計	5,101,223
資産合計	5,101,223		負債及び正味財産合	5,101,223
早 川 幸 男 基 金				
流動資産			正味財産	
現金預金	3,900,676		次期繰越収支差額	11,400,676
投資有価証券	7,500,000		(うち当期増加額)	(2,391,722)
			正味財産合計	11,400,676
資産合計	11,400,676		負債及び正味財産合計	11,400,676

(注) 基本財産(基本金)たる資産： 投資有価証券 9,310,000円
預り金のうち消費税 1,366,358円 (うち当期消費税) 444,247円

監査の結果、収支計算書及び貸借対照表の正しいことを証明いたします。

平成6年4月13日

会計監査

田中 濟 印

小倉勝男 印

1994年度(1994年4月1日から1995年3月31日まで)

社団法人 日本天文学会 事業計画書

ア) 出版物の刊行

- 1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan)
第46巻2号～第47巻1号, 隔月刊, A4版. 発行部数1500, 年間総ページ900を予定.
- 2) 天文月報
第87巻4号～第88巻3号, 月刊B5版. 発行部数3200(4, 5, 6, 7号は3400), 毎号52ページを予定
- 3) 講演予稿集
春季・秋季の年会の講演予稿集各1冊, 発行部数700を予定.
- 4) 会員名簿
B5版130ページ, 発行部数3500を予定

イ) 年会の開催

- 1) 春季年会
会期: 5月17日(火)～19日(木)
会場: 吹田市文化会館メイシアター
公開講演会
日時: 5月20日(金)
場所: 大阪市立科学館
「宇宙の大規模構造」池内 了(大阪大学)
「X線天文衛星あすか」常深 博(大阪大学)

2) 秋季年会

- 会期: 10月12～14日
会場: 北海道大学学術交流会館
公開講演会: 2件を予定

ウ) 総会, 評議員会, 理事会

- 1) 総会
春季年会会場にて開催予定. 秋季年会会場でも臨時総会を開催予定.
- 2) 評議員会
4月中旬, 1月中旬春季及び秋季年会会場にて開催予定.
- 3) 理事会
8月下旬, 3月上旬, 春季及び秋季年会会場にて開催予定.

エ) 委員会, ワーキンググループの開催

- 1) 評議員選挙管理委員会委員長: 観山正見
- 2) 欧文研究報告編集理事会, 天文月報編集理事会
- 3) 天体発見賞選考委員会(3月)幹事: 渡邊鉄哉
- 4) 年会実行委員会(8月, 3月)委員長: 渡邊鉄哉
- 5) 内地留学奨学生選考委員会(秋季年会開催時)委員長: 内田豊

- 6) 研究奨励賞選考委員会(1回)委員長: 池内 了
- 7) 早川幸男基金(若手海外学術研究援助金)選考委員会(2回)委員長: 福井康雄
- 8) 定款改訂ワーキンググループ(2回)幹事: 渡邊鉄哉
- 9) 顕彰制度ワーキンググループ(2回)幹事: 唐牛宏
- 10) 「天文で何を教えるか」検討ワーキンググループ(2回)幹事: 長谷川哲夫
- 11) VTR作成ワーキンググループ(2回)幹事: 戎崎俊一
- 12) TEXワーキンググループ(2回)幹事: 有本信雄

オ) 事務・管理費

- 1) 事務処理能力を強化のため人件費を150万円増額する.
- 2) 事務処理合理化のためのOA化に100万円の支出を予定.
- 3) 富士通(株)寄贈のワークステーションの管理のためアルバイト代として年間12万円を支出する予定.
- 4) 特別事業(スライド集発行など)に100万円を支出する予定.

カ) 特別会計

- 1) 学術交流費
特別会員の学生会費対象者の年会出席に対し, 総額200万円の援助を行なう.
- 2) 内地留学
1名, 年間24万円の補助を予定.
- 3) 研究奨励賞
1名(賞金10万円)を予定.
- 4) 若手海外研究補助金
総額100万円を予定.

キ) その他

- 1) 天文学用語集
A5版, 1500部を予定.

〔付録3〕

平成6年度 収支予算書

平成6年4月1日～平成7年3月31日

【一般会計】

I] 収入の部

(単位：円)

勘定科目	予算額	前年度 予算額
大・中・小科目		
基本財産運用収入	210,000	300,000
基本財産利息収入	210,000	300,000
会費収入	29,490,000	23,800,000
特別会員会費収入	16,190,000	14,000,000
一般会費収入	13,700,000	12,000,000
学生会費収入	2,490,000	2,000,000
通常会員会費収入	13,200,000	9,800,000
賛助会員会費繰入収入	100,000	0
事業収入	23,247,000	18,760,000
欧文研究報告発行事業収入	11,638,000	9,200,000
購読料	5,000,000	5,000,000
掲載料	4,050,000	3,300,000
別刷代	2,588,000	900,000
天文月報発行事業収入	6,404,000	6,430,000
購読料	1,217,000	1,100,000
別刷代	520,000	670,000
広告料	4,667,000	4,660,000
年会事業収入	5,205,000	3,130,000
予稿集頒布収入	1,800,000	530,000
参加費	2,255,000	2,000,000
雑収入	1,150,000	600,000
印税収入	1,680,000	1,600,000
星座早見印税収入	1,500,000	1,500,000
その他印税収入	180,000	100,000
補助金収入	3,850,000	3,500,000
文部省刊行物補助金収入	3,850,000	3,500,000
寄付金収入	450,000	1,000,000
寄付金収入	450,000	1,000,000
雑収入	820,000	1,140,000
受取利息	20,000	40,000
特別企画収入	500,000	550,000
その他の収入	300,000	550,000
繰入金収入	452,078	646,228
繰入金収入	452,078	646,228
当期収入合計(A)	60,199,078	50,746,228
前期繰越収支差額	1,762,849	2,496,048
収入合計(B)	61,961,927	53,242,276

II] 支出の部

(単位：円)

勘定科目	予算額	前年度 予算額
大・中・小科目		
事業費	41,205,000	39,220,000
欧文研究報告発行事業費	17,545,000	17,200,000
直接出版費	11,015,000	10,800,000
別刷印刷費	830,000	720,000
人件費	3,250,000	980,000

謝送料	720,000	1,100,000
託運費	0	2,300,000
搬送品	1,550,000	1,000,000
雑費	170,000	200,000
天文月報発行事業費	17,990,000	16,520,000
直接出版費	12,400,000	11,500,000
別刷印刷費	520,000	520,000
人件費	500,000	1,000,000
謝送料	920,000	1,100,000
搬送品	3,000,000	2,000,000
雑費	600,000	380,000
年会事業費	5,670,000	5,500,000
予稿集印刷費	3,000,000	3,000,000
謝送料	600,000	500,000
搬送品	650,000	600,000
会場費	620,000	500,000
消耗品	500,000	400,000
雑費	300,000	500,000
管理費	15,670,000	11,140,000
人件費	6,500,000	5,000,000
謝金	300,000	300,000
会議費	400,000	450,000
負担金	120,000	120,000
租税公課	950,000	950,000
旅送交通費	1,200,000	1,200,000
旅送通信費	800,000	600,000
什器備品	1,000,000	150,000
消耗品	700,000	700,000
印刷製本	1,000,000	10,000
光熱水	80,000	80,000
賃借料	1,120,000	1,010,000
保険料	90,000	90,000
諸手数	200,000	150,000
書籍購入	110,000	180,000
特刊企	950,000	0
雑費	150,000	150,000
特定預金支出	180,000	170,000
退職給与引当預金支出	180,000	170,000
予備費	4,906,927	2,712,276
予備費	4,906,927	2,712,276
当期支出合計(C)	61,961,927	53,242,276
期収支差額(A)-(C)	△1,762,849	△2,496,048
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0

【特別会計】

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度 予算額
学術交流費	収入の部		
	賛助会員会費収入	2,000,000	1,950,000
	受取利息	10,000	16,000
	前期繰越収支差額	258,049	669,153
	収入合計	2,268,049	2,635,153
支出の部			
学術交流費	2,000,000	2,550,000	
予備費	7,000	9,000	
支出合計	2,007,000	2,559,000	

	次期繰越収支差額	261,049	76,153
内地留学奨学金	収入の部		
	基本財産利息収入	180,000	200,000
	前期繰越収支差額	171,479	237,228
	収入合計	351,479	437,228
	支出の部		
	奨学金支出	240,000	240,000
予備費	10,000	10,000	
	支出合計	250,000	250,000
	次期繰越収支差額	101,479	187,228
研究奨励賞	収入の部		
	資金	400,000	200,000
	受取利息	2,500	50,000
	前期繰越収支差額	5,101,223	1,743,642
	収入合計	5,503,723	1,993,642
	支出の部		
研究奨励賞	100,000	100,000	
予備費	10,000	10,000	
	支出合計	110,000	110,000
	次期繰越収支差額	5,393,723	1,883,642
早川幸男基金 (若手海外 学術研究 援助基金)	収入の部		
	寄付収入	150,000	500,000
	受取利息	50,000	50,000
	前期繰越収支差額	11,400,676	9,008,954
	収入合計	11,600,676	9,558,954
	支出の部		
研究補助	1,000,000	1,000,000	
予備費	10,000	10,000	
	支出合計	1,010,000	1,010,000
	次期繰越収支差額	10,590,676	8,548,954

秋季年会の開催と講演の申し込みについて

秋季年会は北海道大学学術交流会館(札幌市)で10月12日(水)から10月14日(金)までの3日間開催の予定です。講演発表は3会場併行して行う予定です。プログラムは9月20日発行の天文月報10月号に掲載されます。

講演の申し込みは「〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上8月20日(土)までに必着するよう規定の申込用紙を用いてお送り下さい。従来の用紙では受け付けません。

講演は、「口頭発表(講演10分、質疑応答5分)」、「口頭発表(3分、質疑応答なし)+ポスター発表」、「口頭発表(3分、質疑応答なし)」、「ポスター発表」にて行います。また、今回より筆頭講演者の複数講演が可能です。ただし、2つ目以降の講演はポスター発表とします。

post-deadline papersも受け付けます。勿論これは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circularに掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定し、**年会直前(10月7日金)**まで受け付けます。講演方法はポスター発表となります。

全ての講演の申し込みには講演登録料が必要になりますのでお支払い下さい。ただし、特別会員の方は1講演につきのみ講演登録料が免除となります。また、いまままでに年会講演を行ったことがなく、今回が初回の講演申し込みである方も、通常会員、会員外を問わず、1講演につき講演登録料が免除となります。

講演分野の分類は以下の通りです。申込み用紙の裏面も参照の上、ご記入下さい。

位置天文学 天体力学 太陽系 太陽 恒星
星形成 星間現象 銀河・銀河団 宇宙論
観測機器・情報処理 天文教育 その他

今回から星形成、天文教育という分野を設けました。なお申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入下さい(例: 恒星(内部振動))。

講演申込者で年会出席旅費の補助を希望される会員は支部理事を通じて8月20日(土)までに必着するよう「国立天文台内 日本天文学会 理事長」あてに申し込んで下さい。但し申込みのできる人は、**1994年度会費納入済み**の人で、原則として、連名の場合でも**筆頭講演者**であり、正式の給与を受けていない特別会員学生会費納入者に限りません。

講演申込み・発表に際しては特に次の事項を厳守して下さい。

1. 講演内容は完成度の高い研究とする。
2. 連名の場合、発表者を講演著者の筆頭におく。
3. 複数講演申し込みの場合は2講演目以降はポスター発表に限りません。
4. 口頭発表においては、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターを使用すること。
5. ビデオプロジェクターの使用を希望される方は年会申込み期限までに連絡すること。

年会は、主として会員の研究発表や情報交換等を通じて天文学の発展に寄与するものです。会員外の方で講演を希望される方には、申込みの際に入会をお勧めしております。

年會中に集會のため、會議室の利用を希望される方は前もって、北海道大学理学部羽部朝男(電子メール: habe@phys.hokudai.ac.jp, 電話番号: 011-706-2693, ファックス: 011-727-3498)までご連絡下さい。

詳しい申し込み方法については本号挟み込みの説明をご覧ください。

なお、春季年会、天文月報で実施したアンケートの結果は別途月報誌上等で発表する予定です。また、1995年春季年会は会場、開催時期の条件から、口頭発表(10分)による講演発表を希望どおり実現することができるように努力する所存です。(年会実行委員会)

内地留学奨励金の希望者を募集します

応募される会員は、下記要項をご参照の上お申し込み下さい。

留学期間：1994年11月から約1年の希望期間

申し込み：所定用紙に必要事項を記入し、「〒181 三鷹市大沢2-21-2 国立天文台内 日本天文学会理事長」宛に申し込んで下さい。(用紙は日本天文学会事務室に用意してあります)

申し込み締切：1994年9月20日

審査：当学会選考委員会(内規第5条)で審査の上決定し、10月下旬本人に通知します。

支給額：25万円以下で、支給予定は11～12月とします。

人数：原則として1人、新人を歓迎します。

(庶務理事 渡邊鉄哉)

第16期日本学術会議天文学研究連絡委員会・委員候補者の選挙

上記選挙を以下の予定で実施いたします。

6月15日：有権者名簿締切

7月15日～8月1日：投票期間

8月2日：開票

投票方法は従来どおり、日本天文学会特別会員(有権者)による20名以内無記名連記の郵送投票で行います。

庶務理事：渡邊鉄哉

天文学研連委員の改選について

天文学研究連絡委員会委員長 杉本大一郎

来る7月22日から、日本学術会議の第16期が始まる。それに対応して、9月には天文学研究連絡委員会(略して、天文研連と呼んでいる)も改選される。そこで学術会議と天文研連について解説するとともに、今期に実際上初めて適用されることになる研連委員の選任方式について説明し、天文学関係者が選任のプロセスに積極的に参加されるよう呼びかけたい。

1. 日本学術会議

戦後間もない1948年に、学術会議は日本学術会議法によって設立された。同法の前文は、「日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学会と提携して学術の進歩に寄与することを使命とし、ここに設立される。」と高らかに述べている。そのために、学術会議は「科学の振興及び技術の発達に関する方策」を初めとし、6項目にわたって、政府に勧告することができる(同法第5条)、と規定されてい

る。これまで、その有効性がどうであったかは別として、われわれは政府に対して勧告権を持っているのである。

最近のものでは、「新しい方式の国際研究所の設立について」という勧告を今年5月26日の学術会議総会で採択したところである。これは数学研連と物理学研連が最初に提唱し、天文学研連がそれに加わって学術会議第4(理学)部に提案し、そして学術会議の勧告としてまとめられたものである。それは、新しい方式(Isaac Newton Institute of Mathematical SciencesやSanta Fe Instituteのような方式)の数理科学国際研究所(仮称)をまず第一に設立するという構想で、学術における国際貢献に関する案の一つとしても位置づけられている。

学術会議の主な役割のうち、もう一つのものは、「その職務を達成するため、学術に関する国際団体に加入することができる(同法第6条の2)」ということである。天文学では、学術会議は国際天文学連合(IAU)に加盟しており、天文研連はその国内委員会(National Committee for Astronomy)を兼ねている。

2. 天文学研究連絡委員会

学術会議の活動は、その中にある180に及ぶ領域別、および課題別研究連絡委員会と専門委員会によって支えられている。天文学に関係が深いのは、天文研連とその中に設置されている日食専門委員会を初めとして、宇宙空間研連、電波科学研連、物理学研連とその専門委員会などがある。

天文研連で行なってきた主な事柄を述べよう。第14期(1988—91)の終りには、「大学における天文学の教育と研究の充実について」という天文研連の対外報告をまとめた(天文月報、1991年9月号、p.297)。対外報告とは、学術会議の運営審議会で、対外的に発表してよろしい、という了承をとったもので、関係機関や科学者に配布するものである。第15期(1991—94)には、1992年6月に、「国際化時代の科学」と題するシンポジウムを開催し、天文研究者だけでなく、関連分野の科学者、行政、産業、報道関係者も報告者やパネリストとして出席していただき、関連問題を議論した(日本物理学会誌、1993年2月号、p.107)。また、長期計画小委員会を設置して、関連分野の研究者の協力も得ながら天文研究者の議論を組織し、「21世紀に向けた天文学長期計画について」という研連対外報告をまとめた。これは、公表することについて第4部会の了承を得たところで、6月27日の運営審議会で承認を受けた後、対外的に公表する予定になっている。その内容の詳しいことは、小委員会の委員長として大いに努力してくださった海部宣男氏が、近いうちに、天文月報誌上で紹介して下さることになっている。

IAU国内委員会としての活動の一つとして、3年ごとに行われるIAU総会に対応するということがある。今年

の8月14—27日にオランダのハーグで開催される第22回総会に関して、IAUの新メンバーの推薦、若い天文学者のための旅費補助、メンバー以外の者が出席するための招待状の申込などを行なったところである。これらについては、天文月報や電子メールでお知らせしたので、ご存知のことと思っている。

1997年に行われるIAUの第23回総会は、日本学術会議と日本天文学会が共同主催をして、京都市に招待することを予定している。正確に言うと、天文研連、天文学会、IAUでは、そのことが事実上決定しているとして準備を進めているが、学術会議が共同主催するかどうかは、1995年の春に決められることになっている。これについては、総会そのものを実行するということと、この機会に日本と近隣諸国における天文学コミュニティの活性を高めるということとの、2つの観点から、準備を始めている。天文関係者、とくに若い世代の方々の積極的な参加をお願いしたい。この京都総会のことについては、今年のハーグ総会のすぐ後にでも、天文月報で述べたい。次期の研連では、この京都総会関連が主な仕事の一つになる。

3. 研連委員選出の新しい条件

天文研連の委員候補者は天文学会から推薦していただき、分野や地域などに著しい偏りがある場合には、現在の天文研連で必要な調整を行なった後に決めることになっている。天文学会は選挙で候補者を選んでいる。今回も同じ過程がふまれることになるだろうが、委員に選任される資格に関して、これまで実質上は有効でなかった新しい条件が、今回初めて加わることになる。

学術会議は、第13期(1982—85)に入るときに、組織改革を行なった。そして、それ以後は3期(9年)を超えて研連委員として在任することはできない、という規則が定められた。今回、この規則が初めて適用される時が来たのである。ただし、次の各号に該当する場合は、例外としてこの制限は外されることになる。それらは、(1) 研連委員であった後に会員となったものが、会長の指名を受けて再び研連委員となった(指名委員)場合、(2) 学術会議の参加している国際学術団体の役員(当該団体の執行機関に限る)である場合、(3) 研連の設置または活動に重要な役割を果たした者等、その者を欠くことにより当該研連の活動に重大な支障を生じるおそれがある場合、その他特別な事由がある場合、と明示することが、今回、5月26日の総会で決められた。天文研連としては、そのように決まるであろうことをふまえて、1994年3月4日の委員会で、IAUのコミッション・プレジデント以上の役員が上記(2)の場合に対応するとし、その方々については自動的に委員になっていただくことにした。しかし、その他に上記(3)に対応する場合として天文

学会からの推薦があれば、7月8日の天文研連委員会議で再考する。

4. 選出過程への積極的参加のお願い

さる1月10日を締切として天文学会が行なった学術会議会員候補の選挙においては、投票率が30%に満たなかった。そして、そのような状態が続けば天文研究者と学術会議との関係は、じり貧の状態になるという指摘が、その後の評議員会でなされている。

このようなことになったのは、天文研究者の数が大きく増えたので、各研連委員が研連の議論等について、それぞれ周囲の研究者に適当に伝えてくれる、というこれまでの前提が成り立たなくなってきたことを意味するのであろう(例えば、議事録がそれぞれの教室で掲示されているのを見たことがありますか)。このことに関しては、研連としても積極的に広報活動をしなければならない、と反省している。そして、この文章も、その一環として、解説から書き起こした。

さて、委員の選出に話を戻すと、今回の選出では、これまでの場合に比べると、より多くの委員が交替することになると思われる。その重要性を考えると、積極的に選出のプロセスに参加してほしい。新しく発足する委員会が天文研究者の総意をよく反映したものになって世代交替が進んで良かったと思われるようになるか、それとも、不十分な選出によって選ばれたとして信用を落とすことになるか、投票率はそれを表すキー・パラメーターの一つになるからである。(1994年5月26日)

天文月報海外速送サービス

海外在住会員の方々が天文月報を速く入手できるように、SAL便の取扱サービスを有料で行っております。ご希望の方は下記の要領にしたがってお申し込み下さい。

1. サービス料金：1年間2400円。年会費と併せて1年ごとに納入して下さい。

2. 申し込み：原則として年1回(4月期のみ)受け付けとします。締切前に学会へ届くように、送付先・氏名・会員番号を明記の上、書面でお申し込み下さい。書式は問いません。ただし、会費納入後に渡航が決まった方のための便宜措置として、10月期を設けます。

4月期＝1月31日までに次年度会費と併せて前納して下さい。

10月期＝7月31日までにサービス料金を前納して下さい(会費既納のこと)。[これは、年度途中で渡航が決まった方のみの経過措置サービスです。さらに継続を希望する場合は翌年の4月期に忘れずにお申し込み下さい。料金は1200円です。]

3. サービス期間：1年単位。4月号から発送します。10月号の場合は10月号から半年間発送します。

4. 問い合わせ：ご不明な点は学会事務室までお問い合わせ下さい。(本誌奥付参照)。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1)所属部門・所属講座, (2)勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1)着任時期, (2)任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1)提出先, (2)問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

国立天文台大型光学赤外線望遠鏡計画推進部・天文機器開発実験センター・天文学データ解析計算センター教員

1. 助教授1名, 助手3名
2. (1)①大型光学赤外線望遠鏡計画推進部 (助教授1名及び助手1名)
②天文機器開発実験センター (助手1名)
③天文学データ解析計算センター (助手1名)
(2)東京都三鷹市

国立天文台はアメリカ合衆国ハワイ州に大型光学赤外線望遠鏡(「すばる」望遠鏡)を建設中です。従って仕事の分野によっては将来はハワイが勤務地になることもあり得ます。

4. 大型光学赤外線望遠鏡計画推進部は、光学赤外線天文学研究系、天文機器開発実験センター、天文学データ解析計算センターとの緊密な協力のもとに、ハワイに設置する「すばる」望遠鏡の計画を進めています。当推進部は、観測的研究を通して、天文学の理学的側面の研究を推進し、また、すばる望遠鏡の建設・運用・開発を通して天文学の工学的側面の研究も推進しています。これらの面で積極的に研究を進め責任を担う助教授及び助手を求めます。

天文機器開発実験センターは、天文観測機器・技術の開発研究、天文工学及び観測的天文学の研究を行っています。分野によらず広く天文学の観測手段等の革新を目指し、分野間の協力、大学等との共同利用も発展させる計画です。この新しい天文技術の開発センターを築き上げつつ、すばる望遠鏡用観測装置等に関連した開発研究に取り組み、日本の天文学を飛躍させていく意気込みをもった若手研究者を期待します。

天文学データ解析計算センターでは、これまでの天文学データセンター機能に加えて、可視光、赤外線、電波などの観測データを統一的に処理できるデータ・ベース天文学のセンターとしての機能を充実し、これらを通してすばる望遠鏡等による天文学の推進を目指

していく計画を持っています。また、計算機の新しい使い方によって天文学の新しい局面を開くべく活動しています。このような計画を積極的に推進する意欲的な方を希望します。

5. (1)決定後なるべく早い時期
(2)外国籍の方の場合は任期をつけることがあります。
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. 必ず必要なのは：
①略歴書, ②研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), ③研究論文リスト及び主要論文のコピー, ④着任後希望する研究計画及び本人について参考意見を述べることのできる人2名の氏名・連絡先, ⑤他薦の場合は推薦書
8. 平成6年8月31日必着
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 小平桂一
(封筒の表に「大型光学赤外線望遠鏡計画推進部・天文機器開発実験センター・天文学データ解析計算センター応募書類在中」と朱記し、簡易書留にてお送り下さい)
(2)国立天文台大型光学赤外線望遠鏡計画推進部
家 正則 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
(Tel: 0422-34-3703, E-mail: oiyexxx@cl.mtk.nao.ac.jp)
国立天文台天文機器開発実験センター
小林行泰 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
(Tel: 0422-34-3865, E-mail: yuki@merope.mtk.nao.ac.jp)
国立天文台天文学データ解析計算センター
観山正見 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
(Tel: 0422-34-3738, E-mail: miyama@yso.mtk.nao.ac.jp)
10. 「助教授」か「助手」か「助教授または助手」かの希望を明記のこと。また所属について「大型光学赤外線望遠鏡計画推進部」、「天文機器開発実験センター」、「天文学データ解析計算センター」のいずれかを特に希望する場合は、明記のこと。

平成7年度国立天文台外国人客員教授候補者の推薦について

下記により平成7年度国立天文台外国人客員教授候補者の推薦を募集しますので、ご推薦願います。

記

1. 国立天文台所属の受入れ責任者を通じての応募に限ります。
2. 公募分野は、以下の4部門です。

- 1) 光学赤外観測 (光学赤外線天文学研究系)
 - 2) 天体物理基礎理論 (理論天文学研究系)
 - 3) 電波天文観測 (電波天文学研究系)
 - 4) 地球力学 (地球回転研究系)
3. 推薦される候補者がある場合は、受入れ責任者とご相談の上、所定の申請書を作成し、関連資料(略歴等・論文リスト)を添えて、9月5日(月)までに管理部庶務課共同利用係あてご提出ください。申請書書式その他については、共同利用係にお問い合わせください。(電話:0422-34-3660)

国立天文台長 小平桂一

研究助成

1994年度朝日賞候補者の推薦について

朝日新聞文化財団より標記の依頼がきております。推薦票は天文学会にあります。自選他薦を問いませんので天文学会までご連絡下さい。

1. 候補者の対象

わが国のさまざまな分野で業績をあげ、文化・社会の向上に貢献された個人または団体。

2. 天文学会からの推薦は1件です。
3. 天文学会の締切は、1994年8月25日。
4. 発表は、1995年元日の朝日新聞紙上。

(財)宇宙科学振興会、第4回(1994年度)研究助成の募集

宇宙科学振興会より、次のとおり研究助成候補者の募集がきておりますのでお知らせします。

1. 助成対象:宇宙理学(地上観測を除く)及び宇宙工学(宇宙航空工学を含む)に関する独創的・先駆的な研究活動を行う若手研究者(昭和29年4月2日以降生まれの者に限る)
2. 助成件数及び助成金額:1件300万円
3. 応募期限:平成6年10月31日<必着>
4. 照会先:(財)宇宙科学振興会事務局
〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1
TEL 0427-51-1126
5. 申請方法は直接お問い合わせ下さい。

沖縄研究奨励賞のお知らせ

趣旨:沖縄を対象とした自然科学・社会科学・人文科学の中から将来性豊かな優れた新進研究者(またはグループ)2名に贈る賞である。

応募締切:9月30日(沖縄協会)必着

賞:本賞,副賞(研究助成金50万円)

主催:(財)沖縄協会「沖縄研究奨励賞事務局」

問い合わせ:日本天文学会
0422-31-1359 (FAX:兼用)
0422-34-3648 (電話専用)

共同利用・共同研究

野辺山ミリ波干渉計

共同利用観測プログラム公募

国立天文台野辺山宇宙電波観測所共同利用

野辺山ミリ波干渉計の共同利用(1994年12月—1995年4月)観測プログラム募集を行いません。

1. 申し込み締め切り 1994年8月18日(木) 17:00

2. 申し込み及び資料請求先

384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山

野辺山宇宙電波観測所 共同利用係 関口妙子 宛

Tel: 0267-98-4386 E-mail: taeko@nro.nao.ac.jp

審査法・観測時間の割り当てなどについては天文月報7月号の“45電波望遠鏡観測プログラム公募”をご参照ください。また、干渉計共同利用一般に関する問い合わせは、野辺山宇宙電波観測所の森田耕一郎(Tel: 0267-98-4331, E-mail: morita@nro.nao.ac.jp)までご連絡ください。

第3回「あすか」公募観測のプロポーザル締切日変更のお知らせ

第3回「あすか」公募観測のプロポーザル締切日を7月号で平成6年8月15日とアナウンスしましたが、諸般の事情によりこれを平成6年8月30日(厳守、郵送分は当日消印有効)に延期しますので、8月15日に間に合わなかった人もふるって応募下さい。

宇宙科学研究所 長瀬文昭

研究会・集案案内

電波天文台特別公開のお知らせ

国立天文台 野辺山

電波天文学研究系

野辺山宇宙電波観測所

野辺山太陽電波観測所

当観測所では、天文知識の普及と観測所の仕事を広く知って頂くため、下記の要領で観測所の諸設備を一般の方々に公開いたしますので、ご案内申し上げます。

1. 日時 1994年9月23日(祝)

午前10時から4時半まで

2. 内容

(1) 見学 通常の見学コースの他、45m望遠鏡の観測室、10m6素子干渉計の観測室、電波ヘリオグラ

フの観測室、観測データを処理する計算機等を見学
できます。

(2) 展 示 宇宙からやってくる電波をとらえる観測
装置の仕組みや、最近の観測結果を展示します。

(3) 講 演 稲谷順司「電波天文学の発展と先端技術
の役割」

長谷川哲夫「あなたも銀河体験」

(4) その他 質問コーナー等

3. 交 通

鉄道 JR 小海線・野辺山駅下車 徒歩 25 分

車 東京方面から

中央道・須玉インターより国道 141 号を清
里方面約 40 分

名古屋方面から

中央道・小淵沢インターより八ヶ岳有料道
路・国道 141 号を経て約 40 分

☆ なお、観測所内には食堂はありませんので御承
知おき下さい。また、恐縮ですが、上履き（スリ
ッパ等）を各自ご持参下さい。

☆ 入場無料です。

問い合わせ先

〒 384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山

国立天文台 野辺山

電話：0267-63-4300（代表）

（担当）花岡庸一郎、奥村幸子、砂田和良

国際シンポジウム

リオからの道—地質環境・地球環境をめぐる持続 可能な開発—

日 時：平成 6 年 8 月 18 日（木）・19 日（金） 2 日間
午前 9 時半～午後 5 時

場 所：経団連ホール（東京・大手町）

参加費：5000 円

*同時通訳により参加者はすべての講演及び討論を日本
語で聞くことができます

問合せ先

東京都千代田区鍛冶町 1-10-4 丸石ビル内（101）

日本地質学会気付け

地質環境国際シンポジウム組織委員会事務局

TEL：03(3252)7242 FAX：03(5256)5676

研究情報案内

赤外観測カタログ第 3 版マシンリーダブル版につ いて

赤外観測カタログ (Catalog of Infrared Observations)
の第 3 版のプリント版 (1993 年 6 月) が配布されている
ことは、ご存じの方も多いと思いますが、このほどその
マシンリーダブル版を入手しました。実は 1 月に入って
いたのですが、データチェックのことで著者達とやり取
りがあり、改訂版が 1994 年 3 月版としてリリースされま
した。主な点は赤経 $6^{\text{h}}26^{\text{m}}$ のあたりに約 340 行の脱落が
あることが判明して復元されたのを始めとして、随所に
訂正増補が加えられています。プリント版にはこれらの
修正が反映されていませんので注意が必要です。国立天
文台天文学データ解析計算センターからカタログ番号
2184 で配布されますので、関心のある方はご連絡下さ
い。大きさは 9 ファイルで約 24 MB です。センターの汎
用機では第 2 版から位置をキーワードとして検索できる
ツールを提供して来ましたが、第 3 版にアップデートしま
した。マニュアルが出来ています。

CD-ROM 版 ISSA 発売について

IRAS 全天アトラス ISSA (IRAS Sky Survey Atlas)
が CD-ROM として発売されることになり、このほどそ
の製作枚数を決めるための予備調査が行われました。この
締切はすでに終わっていますが、近く発売のお知らせがあ
るはずで、関心のある方は情報に注意して下さい。時系
列の各マップを統合した (coadd) 版だけで、CD-ROM 7
枚組が予価 56 ドルとなっています。問い合わせ先は、Jet
Propulsion Laboratory, IPAC, MS 100-22, 4800 Oak
Grove Drive, Pasadena, CA 91109-8998, U.S.A., 電子メ
ールは issa@ipac.caltech.edu です。

西村史朗（東京都）

編集委員 谷川清隆（編集長）、坂尾太郎、田代 信、中川貴雄、中村 士、濱部 勝、林 左絵子、半田利弘
平成 6 年 7 月 20 日 発行人 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷
定価 700 円（本体 680 円） 発行所 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
電話 (0422)31-1359 (FAX 自動切換) 振替口座 東京 6-13595